

小学校と一緒に環境学習！

中村 拓巳¹・中島 康彦²・秀島 雅子³

^{1,2,3} 九州地方整備局 熊本河川国道事務所 河川管理課 (〒861-8029 熊本市東区西原1丁目12番1号) .

白川をもっと身近にもっと親しみのあるものにするため、地域の防災情報についての知識を普及するために白川地域防災センター(通称:白川わくわくランド)では、主に直轄管理区間で小学校と一緒に環境学習を行っている。しかし、一昨年から新型コロナウイルスの影響で環境学習に支障を来している。そこで、コロナ渦の中での白川地域防災センターの取組状況と今後の対応について報告する。

キーワード 白川, 白川地域防災センター, 小学校, 環境学習, コロナ禍

1. 白川の概要

白川は、自然豊かな阿蘇カルデラに源を発し、熊本平野を貫通して、有明海に注ぐ、幹川流路延長74km(直轄管理区間17.3km(立野ダム管理区間を除く))、流域面積480km²の一級河川である。(図-1)

2. 白川の特徴

- ・白川の流域面積の約80%は阿蘇カルデラが占めており、年間降水量は、全国年間降水量平均の約1.8倍である。(図-2)
- ・阿蘇カルデラに降った雨は、立野河口瀬から一気に流下し、勾配が緩やかになった熊本市街部で流れにくくなる。(図-3)
- ・白川河口に面している有明海の干満差は約6mと大きく、満潮と洪水が重なると、河川水位が上昇しやすい。

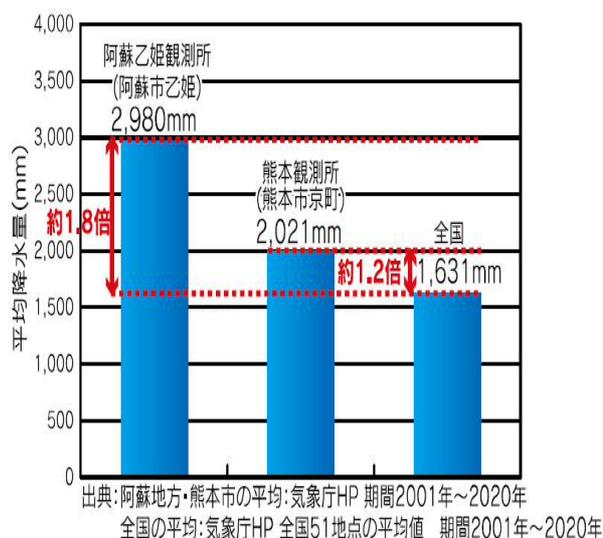


図-2 年間降雨量の比較



図-1 白川流域概要図

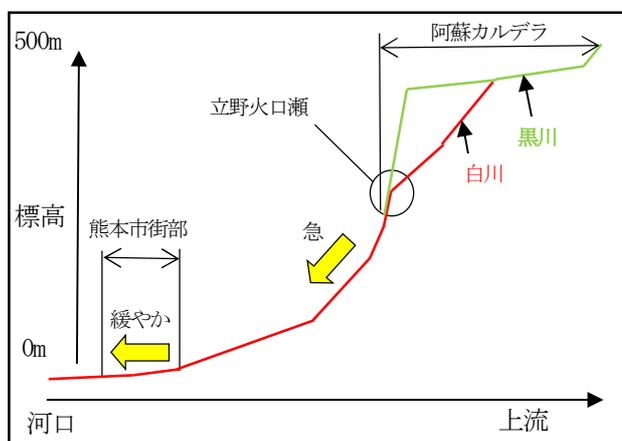


図-3 縦断面図

このような特徴から、白川は洪水が発生しやすい河川となっている。

そのため、白川流域住民や白川沿川住民には、白川の特徴と合わせて、地域の防災情報についての知識を普及する必要がある。

そのような取り組みを行っているのが、白川地域防災センターである。

3. 白川地域防災センター（通称：白川わくわくランド）

(1) 白川地域防災センターとは

白川地域防災センターは、平成12年4月に開館し、館内には、白川の概要・特徴・歴史・過去の水害・環境等に関する情報を展示しており、「学習の場」「交流の場」「情報発信の拠点」の3つを活動の目的としている。

(2) 取組内容

白川地域防災センターでは、白川をもっと身近にもつ

と親しみのあるものにするため、主に次のような取り組みを行っている。

a) 寺子屋（募集型学習講座）

小学生から大人を対象とした河川防災や河川環境、水難事故防止、河川愛護等の体験学習や座学を年間12回程度、実施している。

例えば、白川の水防災と水環境について、上流域・中流域・下流域の3回に分けて、それぞれの地域の防災情報や環境についての学習をしている。

b) 出前講座（相談に応じた学習講座）

小学校等を対象とした河川防災、河川環境等の学習や講座を依頼者の希望内容を考慮し、社会情勢も踏まえ、実施している。

例えば、白川の透視度を調べる水質調査や水生生物を採集・観察し、水質を判定する水生生物調査、白川に親しみ興味を深めてもらうのを目的とした河原遊び体験等を行っている。（図-8,9）河原遊び体験では、現地で各々拾った石に絵を描くストーンペインティングや石積み・石投げ・水切りを行っている。アンケートでは、「今日、学んだことを家族・親戚に話したい」「是非また来たい」という声が多かった。

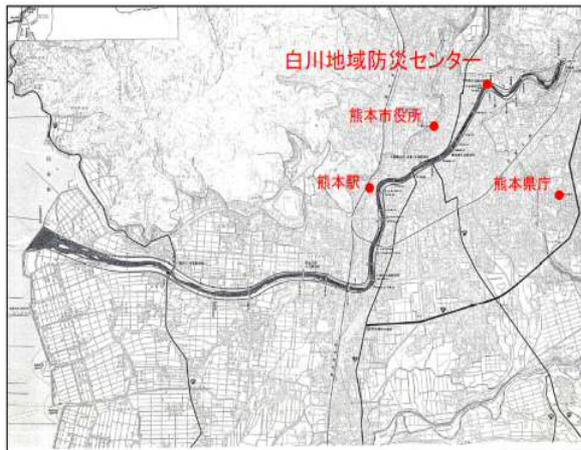


図-4 位置図



図-6 白川地域防災センターの屋内



図-5 白川地域防災センター



図-7 スローロープを投げる様子

また、小学校を対象に白川の特徴や過去の水害等に関する防災教育も行っている。

c) 体験学習等

親子を対象とした自分の身を守る川での流れ方・泳ぎ方や救助活動時に使用するスローロープの投げ方・つかまり方の体験学習等を行う「白川親子流域体験学習」を実施している。(図-7)

「白川上下流の交流学習」といった立野ダムを境に上流下流で生活する小学生とその保護者の交流を目的としたカヤック体験や立野ダム工事現場見学等を実施している。

ちなみに、昨年は新型コロナウイルスの影響で中止となった。

d) 来館者への対応

白川地域防災センターは、月曜日(休館日)以外、毎

日開館しており、地域の方々やマスコミから白川についての問い合わせ対応や散歩がてらに来館される方の対応を行っている。

(3) 取組実績

熊本市内の子ども達を中心に年間数千人の方が個人又は団体で来館されており、平成12年4月開館以降の来館人数は、20万人を超える。団体で来館される方の多くは、寺子屋や出前講座に参加される学校(小・中学校、高校、大学等)であり、直近10年間において、出前講座を受けた学校は、延べ400校を超え、参加人数は、約22000名となる。その中でも小学校は、約300校になる。

こういったことから、白川地域防災センターでの小学校等を対象とした取り組みは、これからも継続的に活動していく必要がある。



図-8 水生生物調査の様子



図-9 ストーンペインティングの様子

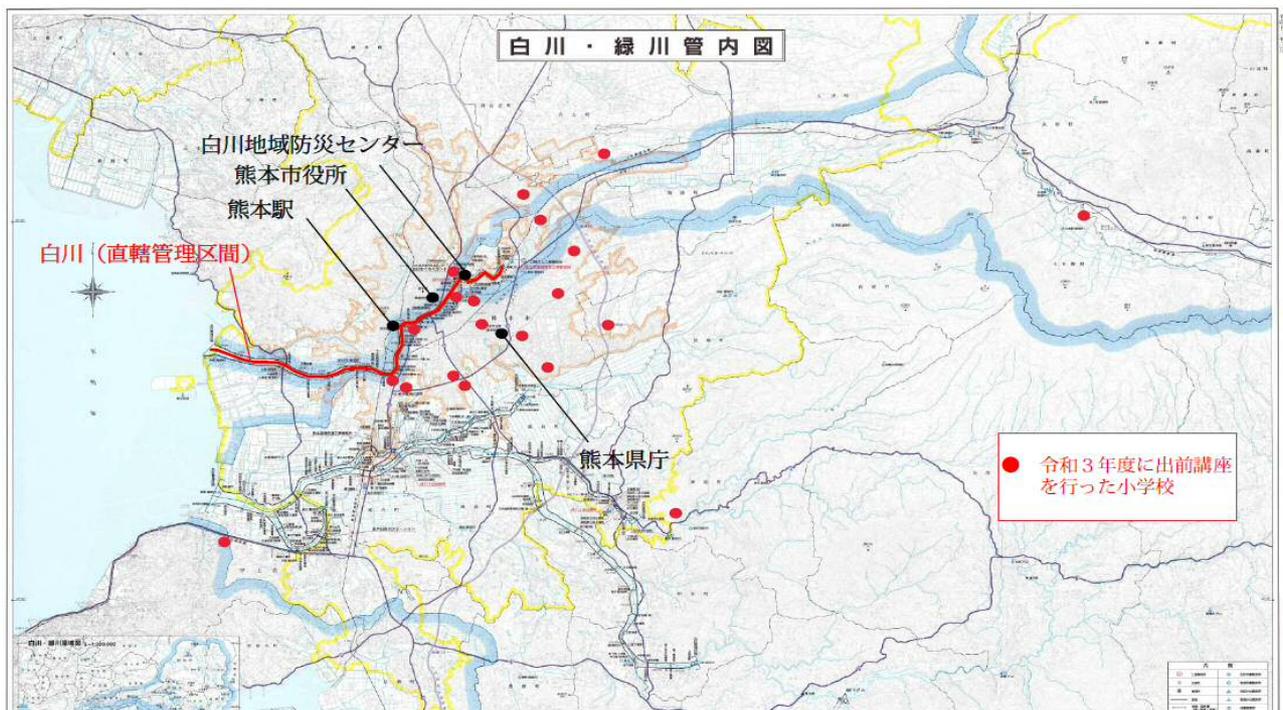


図-10 令和3年度に行った出前講座の小学校の位置図

ちなみに昨年度、出前講座を行った小学校は、20校である。（図-10）

4. 課題

現在、年間数十校と出前講座を実施しているが、多くの学校が6～11月の見学旅行とセットにした来館も多く、同時期での来館希望により、希望する全ての学校に対応ができない。

出前講座において、年間数十校の来館があるが、ここ2～3年は、コロナ禍により、来館が難しい状況であるため、出向とwebによる出前講座の実施を行っている。基本は来館、来館が難しい場合は出向、出向も難しい場合は、webを行っているが、出向とwebにはそれぞれメリットとデメリットがある。

a) メリット

出向では、校区内における河川での学習も可能となり、子ども達も親しんでいる場所であるため、積極的に対応してくれる。学校側と相談の上、可能であれば、校舎内でも講習等を行っている。

webでは、まん延防止等重点措置期間中においても、天候等を気にせず確実に学習が可能である。

b) デメリット

出向では、スタッフが小学校に出向いて、校区内の河川を利用した学習を実施し、コロナ禍を気にせ

ずに学習することが可能であったが、直轄管理区間外での学習になるため、スタッフの事前確認が必要となり、通常よりも準備及び人員がかかる。

webでは、事前に学習教材の貸し出し、システム、機材等の事前確認が必要であり、事前の調整が十分に必要となったり、当日の子ども達の反応が分かりにくく、先生との対応になりがちで子どもは受け身になりやすい上に、システム上、声の大きな子のみの対応になったりする。

5. 今後の対応

今後は、スタッフによる対応だけでなく、先生達にも白川をもっと身近にもっと親しみのあるものを感じてもらうための知識や防災に対する基礎知識を身につけられるような場を設け、基本的な事については先生達で対応してもらい、実演、疑問点にはスタッフが対応するなどの役割分担も必要と思われる。

先生達にも基礎知識を身に付けていただけたら、基本的なことを各学校で説明していただくことで、同時期に来館希望が集まった場合でも、対応できないという問題が解消する。

近年は、白川から離れている学校からも出前講座の希望がっており、今後、どのように対応していくか検討中である。